

第2回 香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会 議事録（要旨）

- 開催日時：令和元年10月31日（木）13:30～15:30
- 開催場所：香南市役所本庁舎 3階第4会議室
- 出席委員：受田浩之委員長、田内修二副委員長、竹内 淳委員、岡林八重美委員、宮崎利博委員、中脇正人委員、田中愉之委員、長崎篤史委員、小松さやか委員、古川和佳委員、百田年真委員、水田貴士委員、土居秀臣委員
- 事務局：野島農林課長、岡林商工水産課長、前川こども課長、岩田地域支援課長、西内企画財政課長、浜田企画財政課長補佐、田淵、嶋内

【次第】

1. 開会
市長あいさつ
2. 委員長あいさつ
3. 議事
(1) 第1期香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括

- 委員長
報告資料はかなりコンパクトに分かりやすくまとめている。それぞれ KPI などもグラフ化されており、傾向の把握もできると思う。2年目以降に上方修正をしたものに対して達成できていない傾向にあるので、上方修正したことが分かるようにした方がよい。資料を基に評価や不明な点ここに盛り込まれていない部分、新たな視点も含めて、ぜひ意見をいただきたい。いただいた意見でこうした方がよいなどの改訂案については、12月に開催予定の策定委員会で反映されていく予定である。
- 委員
気仙沼市の事例が面白いと思った。
広告代理店や各コンサルタントもそうだが、地域に寄り添わないコンサルタントだったらやって終わりになる。ハードの部分で利用してもソフトの部分では、オリジナリティが必要になってくる。
「コミュニティ・リッチ」のいうワードが出た。香南市は5町村が合併したが、なお旧町村の特色がある。コミュニケーションをとるなかで、オリジナリティがでてくるのではないか。その中でイノベーションみたいなものが出てくると感じている。
「観光強化」ということで、「観光」といういろいろな「観光」がある。
香南市では、三宝山やヤ・シィもあるし、塩の道もある。中学校でもスポーツが盛んですし、商店街の魅力が繋がる場合もある。
- 委員長
気仙沼市の取り組みは一例として、興味深く見ていただければと思う。マーケティングでカスタマーリレーションマネジメントという言葉が出てくる。カスタマーリレー

ション、つまりは、顧客とどう関係性を構築していくかということが重要であるとよく言われる。

クルーカードの取り組みを通じて、『顧客が誰か』ということを確認すると、顧客の好みなどを気仙沼として十分に把握でき、観光の取り組みのスタンダードである「いつでも、どこでも、だれにでも」という取り組みを『今だけ、ここだけ、あなただけ』に何を提案したら、一番その対象者に刺さるか、手に取るように分かるようになっている。

そうすると、ネットでHPを見る際、ビックデータで、その人のための広告が配信されている。そのような感じのことだが、それを個人に対してできると、ネット以上の効力を、市民の方、または気仙沼のファンの方に直接売り込めるようになる。これにより、顧客との関係性が強化され、いろいろな形でお金の流れ（キャッシュフロー）が生まれている。今後、香南市のファンを明確にし、香南市のファンは何をさらに香南市に求めているかが明らかになれば、何を届けばいいかが分かる。一つの事例として見て欲しい。

■委員

クルーカードの取り組みは物部川 DMO でも 1 年目の末に企画を検討していた。しかし、3 市にまたがっており、観光に対する行政の力の入れ方に差があるなど、すぐに取り組むことはできないと判断し、まずは各市の観光に取り組む考えの底上げを先に着手することとした。物部のファンクラブ的なカードを作り、顧客の管理については、それが出来てからにしようという経過がある。

しかし、先に「まずはやってみよう」と取り組んだところが、このように実績を上げている。底上げも大事だが、どこかで、「まずやろう」という気持ちを持たないといけないと感じている。

■委員長

気仙沼のクルーカードの KPI は 10 億円としていて、その 1 パーセントを DMO の自主財源に充てることとしている。現状はまだ 3 億円にっていないそうですが、相当右肩上がり目標の 10 億円はすぐ達成するであろうという話をされていた。

■委員

0 歳児の受入ができる保育所が香南市は少ない。働くことを考えた場合、預けられないと難しい。

■事務局

公立で 30 人の受け入れしかない。来年度から企業主導型ということで認定こども園を運営されている事業者が 3 名の受け入れを行うことになっている。

■委員

率直に少ない。上の子と下の子を同じ場所に預けられない現状。

■委員長

講演会でも話したが、0 歳から 3 歳までの保・幼稚教育の質が、その後の「非認知能力のかなりの部分決めていく」ということを、教育経済学的視点を交えて説明した。非常に重要なことと話をした。市として、増やしていくかどうかをどう受け止めるかが大事。

■市長

香南市人生支援計画というものがある。子育て中の職員をはじめ市民の方に入っている話話を部会がある。子育てに関して年々支援策は増えているが、財政面のこともあ

って一気に進めることもできない。しかし、周りから「子育てしやすい市」ということを思っていたことが、自然増・社会増につながり、施策の肝になる。0歳児の受入が現状がこうであり、今後このような必要があるということ議論し、施策へ結び付けていければと思う。日頃の話しや生活の中で感じる部分は遠慮なくこども課へ伝えていただき、それを市の施策として繋げていきます。

■委員長

極めて重要なこと。当事者の子育て世代からすると一刻の猶予はない問題で、可及的速やかな対応を求めたい。

■委員

総括の資料だが、アバウトで市民が冊子を見たときに「へえ」で終わってしまう感じがする。もっと簡単に具体的に分かりやすくしていただけたらと思う。

午前中に障害のある方とヨットに乗ってきた。その時、たまたま外国人が貝殻を浜で拾っていた。話しかけてみたら、カルフォルニアのFBに務めている方で、遊びに来ていて、「ここはカルフォルニアの海よりきれい。」だと言っていた。以前から言っているが、地元には宝はいっぱいあるので公立のインターナショナルスクールを作って、地元の海・山・食べ物などを教えるということで、人口の流出を防ぎ、流入の流れを作れないかと改めて感じた。

■委員長

まとめ方については、ざっくりということで、そういう受け止め方もあると思う。詳しくは参考資料にある。KPIすべてを掲載するとさらに分かりづらい。このあたりを市民の方がどうご理解するかがあり、細かい資料とざっくりした資料両方構えていると思うが、大事なご意見である。お立場でどこが見たいかということが変わる。養成・要望をどんどん出していただき、理解をしやすい資料を一層事務局で考えてほしい。

後半のインターナショナルスクール話だが、一つ大きな提案だと思う。公立のインターナショナルスクールが持っている意味というのは、多様性をこのエリアの中でいかに確立していくかだと思う。講演の中でSDGsの話をした。誰一人取り残さないという考え方は、これからの世界の流れになっていく。「全てを受け入れていくこと」と、その多様性のもとで「インクルーシブ（すべてを包み込んでいく）な包摂されるような社会がより多くの方々に評価を呼んでいる。その1つに、海外からの方々も多様性の一つ。重要な考え方を導いてくれるグループになると思われるので、受け入れの1つの基本的な組織としてインターナショナルスクールがあるという考え方は、突拍子がないものではない。当然の流れかもしれない。多様性をどのように、香南市で描いていくかがポイントになる。インターナショナルスクールを作るとか作りませんの結論は今出せないもので、このようなお考えをお聞きして、多様性をどのようにみなさんとデザインしていくか、ここの議論やアイデアをいただければよろしいのではないかと思います。この提案はみんなでも共有をしていきたい。

■委員

農業分野で新規就農者が増えていない。香南市の就農支援は手厚くて、就農した際はすぐスムーズにことが進む。しかし、香南市の農業は施設園芸がメインとなっているが、それを行うのには何千万の借金を覚悟で始めないといけない。この覚悟が必要にな

るのが新規就農であり、それが要因となり、思ったほど数値目標に届かないのではないか。施設園芸の重要性は理解しているが、それにプラスして「路地野菜」を香南市で新たにメインとなる品目が作れないか。例えば、高知大学の農学部やJAさんを含めて検討していただけないか。露地野菜の対象地は比較的耕作放棄地になっていたり、貸出しする土地になっていたりするが、施設園芸でないとなかなか儲からないので借り手がないという状態になっている。露地野菜で香南市をアピールできるものがないから検討していただき、新規就農者の数を増やす効果を見つけてもらえないか。

次に観光分野ですが、聖地巡礼と似ているということで海外の方が多くお遍路さんをしている。FBやSNSを見て、今後も外国人が増えると思う。来た方をおもてなしすることも大事だが、こちらから情報をどんどん発信する必要があるのではないか。例えば絵金蔵であれば、歌舞伎の格好をして写真を撮れるなどの体験を増やし、発信していくことが必要と思われる。

■委員

露地野菜についての可能性を探るために過去に実施している。香川県に視察に行き、黒豆に着手した経緯があるが、台風などの影響でうまくいかなかった。また、京都に学び「えびいも」を栽培したこともあるが、流通段階で、「よそにはもっと良い商品がある」ということで、これもとん挫した経験がある。香南市は何でも育つ土壌があるが、なんでも作れないという状況がある。現在、路地でキャベツ・レタスに取り組んでいるが手はかかるが収益はあまり上がっていない。

施設園芸は新規就農で、1反1,000万円、環境整備を含めると3,000万円が必要。これを何年でペイできるか。ペイ後は収益が出てくる。まだまだ魅力があるのが農業である。国・県の施策も多いが、香南市は施策や補助金が非常に手厚い状況であり、利用してもらいたい。

■委員長

これまでさまざまなチャレンジが行われていたことが分かった。しかし、継続して可能性を探ることが必要。また、施設園芸のリスクをどのように低減化していくか、経営として参入していく背中を押せるようなことをまだまだ考えないといけない。国や県の施策もさまざまあると思う。県のNEXT次世代型施設園芸農業の取り組みもある。いろいろ取り組みがあるので継続して考えていきたい。

■委員

観光について海外の現状を報告させていただく。香南市には観光協会があるが、ターゲットは国内に限定されていると思う。海外セールスに関しては、県内の6つの組織(広域観光協議会)が行っている。物部川近隣は物部川DMO協議会がそれを担っている。ターゲットは台湾・香港である。台湾は高松空港・松山空港・関西空港・岡山空港に直通便があるので、4~5泊のツアーの中で、一部、高知に来ていただくセールスを行っている。実績として、絵金蔵については、台湾人を4-6月に370人の送客をしている。そこから続けて、年間を通して送客するツアーを予定しており、既に2社が確定している。南国市ではものづくりセンターということで、来年度から動き出す。ここについても台湾の市場を当てていきたいと考えている。

お遍路についても、昨年度から着手している。高知空港に着いて、着替えて、大日寺から雪隠寺までを案内人をつけて一緒に歩くツアーを作成している。これについては、実際に海外の方に来ていただき、検証を行ったうえで、商品化して販売していこうということでも取り組んでいく。

最近言われている問題として、お遍路の顧客は欧米人が多くベジタリアンやビーガンの方が多い。その対応がなかなかできていないことが問題視されている。どこにお願いしていいか、顧客がわからない状況である。広島などでは、ベジタリアン用のパンフレットなどを作成している実績があり、DMO 協議会としても作成しようとしている。これは、ベジタリアン、ビーガンの方に対応してくださいという地域の方へのお願いとプラスしてそういう需要があるということのお知らせ、来られた方がどこに話をすればいいかの3点について強化したいという思いがあって作成するものである。

商機を与えることと、顧客が安心してこのエリアに来れる場づくりを進めていく。これはオリパラによる外国人増が見込まれる中で、受け入れるチャンスづくりでもある。国の中でもそのような動きがあるとニュースで拝見している。

■委員長

古川委員は農業に従事している一方、過去に観光に携わった経験があるということで、活動をしていただければ、さまざまな経験値が活かされると感じる。

DMO 協議会の取り組みを紹介いただいたが、高知県のインバウンド観光は伸びていない。他県と比較しても散々な結果である。その弱みがどこにあるか。宿泊についてもキャパが決まっている、大型クルーズ船に資源投入されているなど、結果、インバウンドの取り組みは負けている（劣っている）状況である。そこに、このエリアでは客単価の金額の明確化が必要で、それをここまで上げるんだというシビアな目標が必要になってくる。どんどんキャッシュフローを生み出す必要がある。

■委員

参考資料1のKPIで、農業施策の中の鳥獣駆除の部分がある。評価Aということで、目標値をクリアしているが、現場からするとそこまで鳥獣が減ったのか、イメージがない。目標数値を考えていかないといけない。自分たちは被害にあっているのが現状。Aで満足するのではなく、次期計画に繋げてほしい。

また、私はみかんを作っているが、収穫時期になって市内外から収穫の手伝いに来ていただいている。そこでよく問題になるのが、「宿」である。香南市内の宿泊施設はホテルや旅館があるが、金額も高く、そのようなところに泊まってミカンの収穫ということにはなかなかならない。市の方で、働きに来る際に安価に寝泊まりできる施設や空き家の回収、市営住宅の活用などで実現できないか。提案であるが、農業者の現場では声が上がっている。

■委員長

鳥獣被害の計画の達成度と現場の声にはズレがあるということ。KPIを設定することにおいて、これは産業振興計画にも重なってくる。後半の話であるが、労働者確保に向けた重要な問題である。その解決策として「民泊」の提案もあったが、これについてはどうお考えか。空き家は全国的にも13~14%と言われている。香南市の空き家の数

値も出ていると思う。空き家の整理の一環としてお試し住宅の整備もあるし、空き家の整備を通じて移住の話などもある。繁忙期における営農の担い手の方々への対策なども一つの案ではある。

■委員

空き家対策としては難しい面もある。シーズンを通じて、みかんは秋、多品目は春というような形の組み合わせも考えられる。人手不足を担う「山北みらい」というような会社の動きもあるので、検討はしていきたい。試験的に宿泊費の検討という意見も過去にはあった。

■委員

安く気軽に泊まれるものを求めている。

■委員長

関係人口を増やしていくことが議論されている。いきなり移住ではなく、例えば、観光で訪れて、少し関係が生まれ、やがて移住まで考えていただける取り組みが議論されている。香南市で、いろいろなことに関わっていただく、気軽な関係構築のいろいろな施設を、宿泊施設も含めて考えていけばよいのでは。

■委員

法的な整備はできていないが、国体の時に集会所を活用した事例もあった。民泊ということで野市町はそのような活用をした経緯がある。集会施設の活用も可能性はある。

■委員

地元で、香我美町の枠内で、現場に近い場所が良いので、そのような活用を考えていただくと助かる。遠いと迎えに行く手間なども発生する。

■委員長

今の意見などをいかに実現できるかだと思う。制度的に難しいところもあることは承知の上で、こういった組み合わせが出来ればよいと思う。

■委員

全国的にゲストハウスの動きがある。過去、宮古島で、1か月単位で日に500円で寝泊まりしてという経験がある。バックパッカーや外国人、海で働く方や、山で働く方など、さまざまな方が住み込み、そこには遊卓というコミュニケーションがとれる場もあり、そこで情報交換などをしながら、2段ベッドで寝泊まりするというような経験がある。バックパッカーなどは、このような、安く気軽に泊まれる場所を探している。なので、集会所などは当てはまらないケースがあると思う。

また、香南市内でゲストハウスを作ろうとしている動きを進めている方もいる。市としてそこをサポートできるようであれば進めていただきたい。

観光の動きでは、新しいサイクリングの動きもあって良いと思うが、個人的には、冬の夏祭りの実行委員長をしている。この祭りは25年目で、自分の代で3代目だが、後継者を作っていかなければならない。次世代を、後継者を作っていくことについて悩んでおり、先ほど無料でゲストハウスのような取り組みを行っている事例を紹介したが、そのような取り組みは理想である。毎年8月に行う祭りには、ゲストハウスを利用した多くの方が戻ってきて手伝うという仕組みができています。そのような形で、地元の人以外の交流と後継者づくりが自然とできるスキームができています。これを目指したいというのがある。

また、別の方から、香美郡野市町時代に行われていた「ちんどん」を復活してほしいとお願いされている。香南市になる前になくなったので、復活すれば香南市として初め

での取り組みになる。以前は全国大会も行っており、9,000 人の人口に 10,000 人の観光客があった。そのことは、誇りに思っており、復活させていくという動きを、香南市全体で出来たらよいと思う。

■委員長

ゲストハウスの話だが、いろいろな民間ベースの動きに、どう寄り添っていけるかが大事。繁忙期の手伝いとどう組み合わせていけるかご検討いただきたい。

お祭りの話だが、香南市になって途絶えているものを復活させることは素晴らしいこと。こういうことを通じて基本目標4の「コミュニティの醸成」に、しっかりつなげてほしい。

■委員

先だって、農業部会を開催し、今年度の取り組みを確認した。ソフトの部分は進んでいるが、ハードの部分は異常気象の影響などで、一括に進まっていないということで理解をしている。先ほどお話があった「鳥獣被害」の件だが、カラスを撃ったら、警察から電話がかかって来たという事例があった。一般市民の方への理解、周知が必須であることから、農林課へ要望をさせていただいた。

「ちんどん」の復活の話だが、現在、香南ケーブルテレビの方で、子どもたちが番組を作るという取り組みを行っており、その取り組みの中で、「子どもちんどん」を復活すると聞いている。この番組を作成してるディレクターも全国で賞を受賞していたが、非常に良い取り組みだと感じている。自分の娘も当時、「ちんどん」をやったことが良い思い出になっている。野市町の商店街を歩行者天国にして、復活させてほしいという思いがある。

■委員長

前半の話は農林課でしっかりご対応をお願いします。

■委員

香南市の各町の農業分野はすごく盛んにされており、赤岡町・吉川町でしたら漁業も盛んですが、子どもたちは地域のことをよく知っていると思う。野市町ならニラのこととはよく知っており、ニラ農家を訪問し、ニラを刈るなど、いろいろな学習をしていると思う。まちのことは知っているが、香南市の隣町のことをどれほど知っているか、例えば野市町の子が香我美町のみかんのことやみかんの花の時期や香りを知っているか、などいつも思う。せつかく市政10年以上経過するので、学校教育の中で、各町の枠にとらわれないでほしい。縛っているわけではないだろうが、なんとなく旧町村の枠が残っているように感じる。ぜひ払拭して、例えば、野市町の子が吉川町や赤岡町に行ったら干しを体験してみるとか、香我美町の子がニラを刈るとか、地区を超えた学習ができないかと考えている。JAの方々に伺ったが、みかんバターを香我美町の小・中学校で教室を実施していると聞いた。この取り組みをぜひ、隣の町でも行ってほしい。そこから、市を超えてやっていただくことで更なる発展に繋がると感じている。

井上ワイナリーが香南市にできると新聞報道であったが、例えばブドウを栽培することは、新しい農業になると思う。このぶどうの栽培は、これまでの農業の歴史と比べると新しい農業だと思う。これからの新たな産品づくり、旧町の縛りはない産品だからこそ、枠を超えられるものではないか。

市の特産であるということで地域の伝統などを子どもたちに繋げていきたい。もし、可能であれば、そのような取り組みを行い、地域に残ってもらい、将来の担い手の確保に繋げてほしい。

■委員

ケーブルテレビでは、子どもたちが企画し取材をするという番組を行っている。この番組は子どもたちが生き生きし、自分たちが取材しているので、内容も覚えており、さまざまな方面で宣伝している。非常に良い取り組みである。

■委員長

相当ヒントのある話と思う。

■委員

17 ページに「少しずつであるが成果が出ている」とあり、今後の 30,800 人の目標を変えないというのは前向きで良い。しかしながら、グラフで見るとこの 4 年間で 600 人弱が減っている、これをどう捉えるか。一所懸命取り組んでいるが、結果的に減っているのは全国的な傾向なのか、あるいは、県内での一般的内傾向の動きなのか。県の方にお話を聞きたい。

第 2 期の計画を立てるときは、減少率を少なくするとか、上向きは難しいと思うので、少なくとも、この 600 人近い減少を数百人に抑えるというような、第 2 期としての数値目標を立てるのは、しっかりした数字は入れられないと思うので、そういった目標を立てたらどうか。それと、個別の目標 (KPI) ですが、14 ページの県外からの移住者については、目標は変えると思う。目標を実績は大きく上回っており、安心していることはないと思うし、スタートは目標が 1 組であったし、移住は日本の動き、全国の動きからすると、当然上へ上げていかないといけない。県としても 1,000 組の移住者の数値を上げており、それからすると少ない。

また、10 ページになるが、新規就農者だが、これ逆に計画に満たないから実現可能な目標を第 2 期に入れるのではなく、新規就農者はインパクトがあると思うので、移住も伴うと、定着率も高いのではないか。今、農林課においても「人・農地プラン」ということで、土地を生み出す、遊休農地を活用していこうという話もある。初期投資に負荷がかかる部分は行政が手を差し伸べ、何年間か従事すれば厳しくない状況になると思うので、高い目標をお願いしたい。今こうだからではなく、「こうやるぞ」という目標を立ててほしい。他の分野でもいえる。

第 2 期については、第 1 期の結果を踏まえて、「ある程度実現可能なもの」ということではなく、「この目標に沿うためにはこの個別目標 (KPI) をたてるんだ」という積極性を出してもらいたい。

■委員長

第 2 期を考えるうえで、特に KPI の設定の仕方の部分でご意見をいただき、市としてどう考えていくか大いに議論してほしい。

13 ページに、転入転出の届け出別あるいは市町村別のデータがある。人口ビジョンについて、東京一極集中についてこれまで議論してきたが、よく見ると、転出入は県内で戦っている。競争相手は高知市、南国市、香美市であることが分かる。東京が敵だといいつつ、東京の比率は相当低い。この 5 年間でリーサスに基づくと、現状の変化だと

か、本当に市をまたいで人の移動というのが詳細に見えてくる。もう一度、このタイミングでリーサスの情報を基に、動的な人の移動を見える化し、さらに言えば、高知市、南国市の人の動きがどういう背景で動いているかを、もちろん、高知市のベッドタウンの意味合いもあるだろうが、それ以外にも中にはいろいろあると思う。それぞれの人の暮らしが、どうあれば、より香南市としてハッピーなのか。香南市としてのハッピーは、住民の方々の幸福にどう貢献しているか。きめ細かくみていくことで、KPIとして、市外に出ないとか、出るとかではなくて、どうあるべきかと、先ほどの小松委員の子育ての話もあったが、そういうところも含めて、繋がっていくのではないか。

この5年、きめ細かく、現状の分析をしていくことの重要性が、こういうところから、見てとれそうである。これに基づいてKPIというもの本質的に描いていけないのではないか。

■委員

観光の分野において、例えば、龍馬マラソンや四万十ウルトラマラソンなどの宿泊を伴うイベントを開催しているが、東の地域として、三宝山や5つの町を回れるようなマラソンイベントを企画するのはどうか。それが根付いていけば人も呼べるのではないか。

■委員長

スポーツイベントの現状はどうか。

■委員

市外から、人が来られるスポーツとしてはゴルフが一番多い。次に、市とか団体とのイベントとしては、マリンスポーツ関係のイベントが多い。また、子どもの各種スポーツ団体も多く、自転車のシクロクロスなどの大会も多い。ただ、スポーツイベントと商業の組み合わせはないのが現状ではないが、イベントの開催は多い方ではないか。

■委員長

種目の分析が必要だと思うが、キャッシュフローを目的にするのか、誘客を目的として関係人口を目的にするのかでも違うと思うが、大会をして、人が集まり、イベントとして定着するには、ストーリーが必須。なぜ、そこにそのスポーツが来て、人が集まり、聖地化するかは必然が絶対必要。そこが描けるストーリーがあるのかないのかである。

■委員

香南市観光協会と塩の道保存会が主になり、塩の道トレイルランニングレースを開催している。今年も300人程度の参加があった。前泊でお越しになっている方もおられ、県外率も3割程度だと思う。あと、ヨットの大会も誘客があると思う。宿泊を実行委員会および香南市観光協会が整理して、近くの宿泊施設に泊まっていたら大会に臨んでいただく動きを行ったと思われる。県外では、トレイルランニングレースは実行委員会化し、大手旅行会社も入っている。四万十ウルトラマラソンもそのような動きで、旅行商品のパッケージとして、多くの誘客に結びつけている。今後、塩の道トレイルランニングレースは新規参加者やリピーター率も高いので、どこまで、大きくしていくかにもよるが、観光協会と塩の道保存会だけではこれ以上の規模拡大は難しいと感じている。市を挙げて、3市エリアをあげて進めていくのであれば、もう少し、組織体を考えないといけないという話はしている。

■委員長

構想が明確にないと、どうあるべきかが語れないと思う。塩の道は明確なものであり、必然があり、ストーリーがあるもの。そういうところから、うまく展開できるものであ

■委員

れば、企画を発展させて考えていただく必要がある。

県の第3期産業振興計画やまち・ひと・しごと創生総合戦略は今年で計画期間が満了となるので、来年度の新計画のために今から新たな計画づくりをしている。その中で、観光分野につきまして、地域観光課より話があり、「広域観光をいかに進めていくか」という視点で来年度の事業を考えているとの話をいただいている。これまでの歴史や体験型の取り組みから、それぞれの拠点は増えてきているが、「点」として存在しているケースが多い。それをいかに「面」にしていくかということで、広域観光組織と構成する市町村が一体となって、また、観光協会、商工会、飲食店、1.2.3次産業などのあらゆる幅広い業種の方と連携しながら、広域観光を進めていこうとしている。来年度の予算要望として、「インフラ関係（土木の部門）」や「公共交通関係（交通運輸の部門）」など、部を超えた連携を進めていきたいという話を聞いている。ただ、予算も伴うことから、どこまで実現するか、途中段階の説明であることも併せて伺っている。

商工業の部門になるが、商店街の振興ということで、香美市では「商店街振興計画」を策定するという動きが生まれている。

南国市でも海洋堂の動きが始まり、それをきっかけに、ごめん町商店街の賑わいをつくるということで、まもなく協議会の立上げに向けて動きが始まる。

香南市の方でも、商店街振興を考えていただき、取り組んでいただければと思う。

県の商工労働部の支援策は現在もさまざまありますが、今後、地域の商店の振興については、振興計画を立てていただき、それについて支援を行う流れになる予定ですので、ぜひ計画づくりを進めて、活用していただきたい。

■委員長

全般を通じて、委員の方から5年間の総括について、否定的なご意見はなかったように思う。一定、市としてもまち・ひと・しごと創生総合戦略の5年間で最後まで全力を尽くしていただき、次期の5年間について考えていただきたい。

ただし、個別で見ると、KPIなどでは計画と現場に乖離する部分がある。さらに、人口減少にどう立ち向かっていくかという視点で見たときに、目標は下回っているというリアルな現実もある。今後、これをどういう風に考えていくか、しっかりと戦略をたてていく。そのためのデータとしての細かいところを考察していかないといけないのではないか。特に、次期をにらみつつ、さらに前向きな話もいろいろいただいた。

農業の振興に関しても、施設園芸から路地のものへ少し目を向けていくという意見をいただいた。また、井上石灰工業の醸造所の建設という明るい話題もあって、6次産業化の好事例が香南市で出来上がりつつある。より一層の賑わいをということで、ゲストハウスや祭りの復活を通じて、コミュニティの再構築を当然、次期計画には課題として考えていかないといけない。これは、第1期の基本目標4の中で目標を下回っている話もあるので、このあたりの改善策ということで考えていただきたい。

最後に、観光の話として、香南市においては、1つ重要な全体を駆動していく産業振興の柱になっていくので、さまざまなプレーヤーがいて、力を合わせていき、多様な視

点で、香南市の魅力をもっともっと価値として、ブランド化していくということで工夫の余地があるという話をいただいた。

忘れてはいけないのは、子どもたち。教育の面で、0歳児の保育の話もあった。さらには、旧5ヶ町村、香南市として、子どもの教育と地域の産業をうまく組み合わせることで、香南市の強みをしっかりと受け継いでいくような「地域学」、つまりは、地域の教育の強化というものを通じていくことによって、より一層、香南市の魅力を伝えていくことができるのではないかと。その一環としてインターナショナルスクールの話も伺った。多様な方々がみんな、インクルーシブに生活できるような香南市づくりというところでは、皆さんの考えている思いというのは共通していると感じたところがある。教育に関しては、皆さん色々な思いがあると思う。

第2期の話については、12月にたっぷり話をしたいと思う。各お立場で、周りの方々のご意見も伺っていただき、議論していただき、どういったことを盛りこむべきか、具体的に提案をいただければ大変ありがたい。

教育以外の部分でも、今日題材として出なかった部分も相当あると思う。例えば、水産の関係の話はほとんど出なかったが、どう考えていくか。産業振興の部会のご意見も踏まえつつ、全体としての「まち・ひと・しごと」ということで議論できればと思っている。

今日の2回目については時間の都合上、以上とする。

4. その他

(1) 年間スケジュール

5. 閉会